

ティラノミムス全身骨格の初公開について

1 経緯

ティラノミムスは、福井県勝山市の恐竜化石発掘現場から化石が発見され、令和5年に新属新種として命名された、オルニトミモサウルス類に属する恐竜です。オルニトミモサウルス類は一般的に、小さな頭、長い首、細長い後肢など、ダチョウによく似た体型をしており、速く走ることが得意な恐竜として知られています。ティラノミムスもこうした特徴を備えている一方で、系統的には、より大型でがっしりとした体型をもつ傾向にあるデイノケイルス科というグループに属し、その中でも比較的原始的な位置づけにあるとされています。

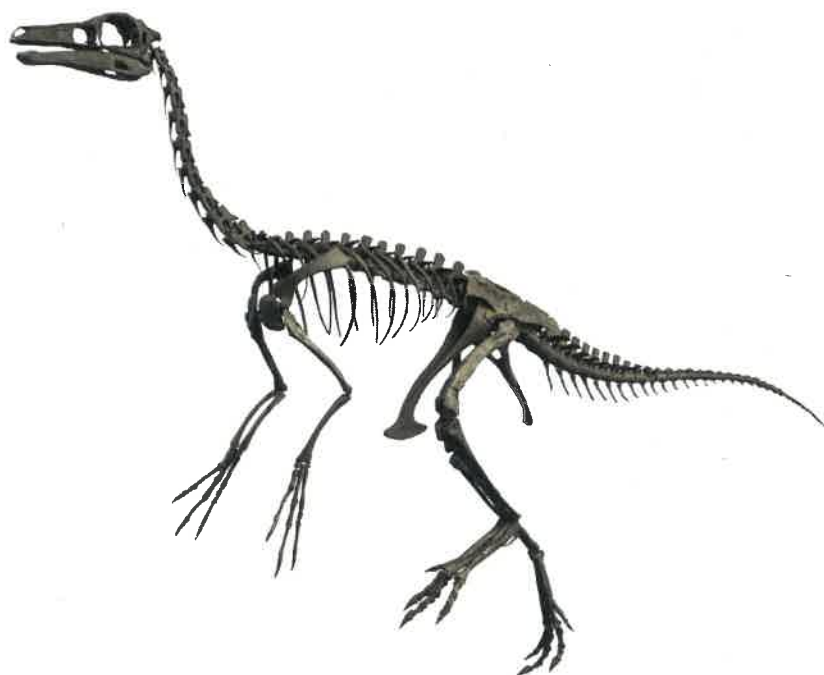
この度、恐竜博物館の開館25周年を記念して、福井県産の恐竜の全身骨格としては4体目となるティラノミムスの全身骨格を制作しました。この全身骨格は、コンピュータ上で作成された骨格の3Dモデルに、実物化石の情報を組み込んだ上で、3Dプリンタで出力して組み立てるという工程で制作されました。発掘現場で発見されたティラノミムスの化石には、複数個体に由来する骨が含まれていますが、この全身骨格は、現状で得られている化石の中では最大サイズの個体に基づいて制作されており、全長は約2.2メートルです。

獣脚類の恐竜をテーマとする今回の特別展では、「オルニトミモサウルス類の進化」ゾーンの目玉の一つとして、制作した全身骨格を世界初公開で展示します。

2 標本の詳細

(1) 学名	<i>Tyrannomimus fukuensis</i> (ティラノミムス・フクイエンス)
(2) 分類	竜盤類 獣脚類 オルニトミモサウルス類 デイノケイルス科
(3) 時代	前期白亜紀 (約1億2000万年前)
(4) 産地	福井県勝山市北谷町
(5) 地層	手取層群北谷層
(6) 全長	約2.2メートル
(7) 所蔵	福井県立恐竜博物館

ティラノミムス全身骨格（参考画像）



ティラノミムス復元画（参考画像）

